



林 声

2022

11 月号



県内各地の森林を紹介する「様々なスタイルの森・おかやま」。今回は、富原林業の礎となったスギ林をご紹介します。真庭市曲りの林元治（はやし もとじ）さんは、富原林業の礎を築いたスギをシンボルツリーとして後世に引き継いでいくために、今後も適正な管理を行っていきます。

(詳細はP 2 に記載)

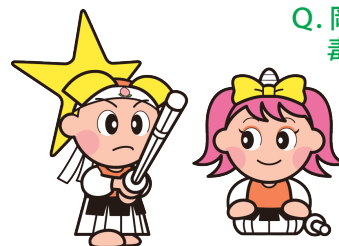
目 次

様々なスタイルの森・おかやま ～富原林業の礎となったスギ林～	2
生き活き！林業の現場（新見市林業振興課）	3
普及指導区の情報（井笠普及指導区）	4
第55回岡山県農林漁業功労者表彰	5
環境学習エコツアー（森林環境学習コース）	6
県産財利用の推進施策について ニューフェイスです！	7
（びほく森林組合 小林建太さん）	8
研究だより （早生樹種の選抜・育種を目指して）	9
技能講習等情報	10

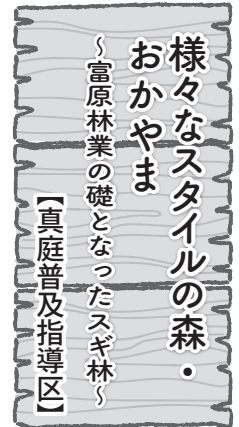
林産物市況	11
森林・林業施設の紹介 （津山市沼自動車学校宿泊棟）	14

【ほっけ～木になる情報】

Q. 岡山県内で、注意すべき
毒キノコはありますか？
(答は13ページ)



©岡山県マスコット「ももっち・うらっち」



一 はじめに

岡山県の西北部に位置する真庭市は総面積82,853㏎のうち79%が森林で占められ、北部には蒜山三座をはじめとした山々が連なっています。また、市の中央を東西に旭川が流れています。

市の中西部に新見市と境界を接する富原地域は、古くからの林業地として栄えてきました。そのため真庭市は、岡山県内でも有数の木材産地となり、木材産業が発展し、原木市場3市場、製品市場1市場、製材工場32工場、木質バイオマス発電所1施設、CLT工場1施設を有する地域となりました。今回は、その礎となったスギ林を紹介いたします。

二 富原林業について

富原林業は、明治中期の頃、清谷の戸田彦太郎氏によって本格的な拡大造林が進められたことが発端となり発展したと云われています。しかし、それより以前の江戸

末期（明治維新の7〜8年前）に曲り地区の林元治氏のご先祖にあたる林庄蔵氏が、伊勢神宮へ参拝した時に吉野系の苗木を持ち帰って植えたものが富原林業の礎です。このスギ林は、樹皮や枝葉の付き方等が周囲のスギとは違うことが分かります。その中で最大のスギは、林齢約160年生、胸高直径121センチメートル、樹高51㏎、幹材積12.5立方㏎あります。



三 林研グループの活動

林元治さんは、真庭森林・林業研究会の前身となった富原林業研究クラブ（以下、林研クラブという）の設立に尽力しました。設立当初の昭和44年度から55年度までの11年間林研クラブの会長として優良林分品評会を主催するなど、地域の林業経営や優良材生産技術の向上に尽力しました。

また、林研クラブが主催する地元小学校林業教室のフィールドとしてスギ林を整備して提供し、長伐期施業が少なかった時代であったため、壮大な林を見て児童が感動し、緑の大切さを実感していたとのことでした。



林業教室の様子(平成13年当時)

四 品評会について

令和3年11月に真庭木材市売で開催された全国優良木材展示会（素材の部）において、この林分から出品されたスギ材（長さ8.0㏎、直径76センチメートル）は、真庭市長賞を受賞し高値で取引さ

れました。

都会に出ている長男家族が品評会に出品するにあたり、伐採の現場で立ち会いをされたとのことでした。



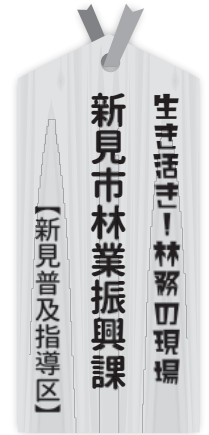
品評会への出品

五 最後に

林さんは、富原林業の礎となったこのスギ林を地区のシンボルツリーとして後世に引き継いでいきたいと熱く語っておられました。

当普及指導区では、スギ林が林業遺産として次世代に引き継がれるとともに、富原林業の歴史が語りつがれるようサポートしていきたいと考えています。

（林業普及指導員 神本 英夫）



一 はじめに

新見市は、県北西部に位置し、総面積79,329畝のうち約86%を森林が占めています。人工林率は約57%で、内ヒノキが約72%の割合となっており、全国と比較してもヒノキの割合が高いといった特徴があります。

新見市は、林業のさらなる振興を図るため、本年4月に組織改編を行い、農林課から「林業振興課」が発足しました。課を率いる安達喜彦課長に、発足から半年が経った林業振興課の業務内容や今後の予定等についてお聞きしましたので紹介します。

二 林業振興課の紹介

林業振興課は、林業振興係と治山係で構成され課員は5名です。市内にある豊富な森林資源を活用し、持続可能な森林整備を進め、地域林業の成長産業化を目指すこととしています。



林業振興課のみなさん

三 業務の内容

林業振興係は、林務行政全般を担当しています。担い手対策として、8月に首都圏在住者を対象とした移住に関するオンラインセミナーや10月に大阪府で開催された森林関係イベントに参加し、移住就労のPRを行いました。

また、増加する皆伐・再造林に対応するため、森林環境譲与税を財源とした「新見市植林促進事業」を創設し、再造林実施への意欲に繋がるよう積極的支援に取り組んでいるところです。

治山係は、市有林の整備、森林病害虫関係及び治山林道業務を担当しています。近年は増加するナラ枯れ被害対策として、被害状況

調査や被害木駆除等を行っています。組織改編により、業務分担当より明確化され、森林・林業行政に専念できる体制となり意思決定の迅速化も図られています。



林業振興係による担い手対策会議

四 今後の取り組み

林業の成長産業化を目指すことを目的に、地域の林業関係団体で構成する「未来へつなぐ新見の林業会議」を10月31日に設立しました。

この会議の中に「担い手対策部会」「木材利活用部会」「森林整備部会」を創設し、施策の検討及び推進を図ることとしています。

また、本市の森林・林業の将来像を示し、総合的・計画的に施策

を展開していくことが重要であることから「森林ビジョン」の策定を本年度予定しています。本市は、素材生産業が盛んですが、生産された原木の多くが市外へ出荷・製品化されており、これを市内で循環できる仕組み作りを考えています。



治山係によるナラ枯れ被害状況調査

五 終わりに

林業振興課への改編に際しては、新見市長の熱い思いが込められているとのことであり、課長をはじめ全員が、目に見える成果となるよう熱意をもって業務に取り組んでいます。市が創設した林業会議に当普及指導区も参画しており、引き続き連携を密にして支援していきたいと考えています。

(新見普及指導区 湯浅 秀通)



一 はじめに

備中南森林組合は、スマート農林水産業の全国展開に向けた導入支援事業のうち、「スマート林業導入支援事業」を今年度から取り組んでいます。

二 現状と課題

当組合は、県南部の人工林が少ない地域を事業エリアとし、地域森林の適正管理に努めています。平成31年4月に施行された森林経営管理制度では、森林所有者の意向調査等について、市町からの業務委託による現地調査や、経営に適した人工林の判断などに携わり、業務の効率化が求められました。

三 GNSS測量の普及

森林組合では、平成24年からGNSS測量を活用しています。当時の測量機は、精度が低いなどの理由により、造林補助申請には活用されていませんでした。

しかし、現在では衛星の数が増

え、機器自体も小型軽量で、高性能となったことから、林内でも高い精度の位置情報を取得できるようになりました。組合では、令和2年度にGeode（ジオード）という測量機を導入し、その普及を図るため、令和3年12月、(株)ジツタ中国に協力をいただき、備中県民局管内の森林組合や県職員等による研修会を開催しました。その結果、GNSS測量による造林補助申請が行われるようになりました。



GNSS測量研修 R3.12.10

四 無人航空機（ドローン）導入

森林経営管理制度の効率的な実施に加え、森林資源量調査や造林等施業エリアの確認を目的としてドローンを7月に導入しました。

併せて、ドローンから得られた調査結果をデジタル情報として管理するためのソフトも購入し、円滑な業務運営に役立てています。



PHANTOM 4 PRO V2.0 (ファントム)

五 今後の取り組み

今回、導入したドローンによる森林調査を進めるため、年内にはオペレーター3名を養成する予定です。



ドローンの空撮状況

としています。

今後は、ドローンにより得られたデータを活用し、3Dレーザー測量データを解析するソフトAssistZ（アシストZ）により、点群データを元に林地の材積を推定することや、山林を3Dで管理することで急傾斜地や崩壊地を把握し、縦断勾配と横断地形を勘案した路網線形の検討などに利用することとしています。



3D画像と空中写真

六 最後に

備中南森林組合では、森林資源量調査で把握した広葉樹林を活用していくため、当該事業により縦・横兼用の薪割機も導入しています。薪は、矢掛町ふるさと納税の返礼品「やかげの薪」にも利用されるそうです。

(井笠普及指導区 竹井 裕子)

第55回岡山県農林漁業 功労者表彰受賞者の紹介

林業・木材産業の振興に尽力された方々の受賞が決定しました。心からお喜び申し上げます。（敬称略）

《知事表彰〔林業部門〕》

三木 敬臣（鏡野町）

三木氏は、計画的な枝打ちと収入間伐を繰り返す長伐期施業を基本に、木材市況も考慮した間伐木の選定・採材に努められ、平成16年の風倒木被害では率先して森林の再生に取り組みなど、地域の健全な森林づくりの模範となっております。



三木 敬臣氏

また、林業経営者有志で結成した明日檜会の会長として、チーンソーン等の安全講習会をはじめ、岡山県漁業士会や森林組合と連携した森と海をつなぐ活動、移住希望者への林業体験活動や技術習得の支援などに取り組むほか、岡山県林業改良普

及協会の専門部会長や全国林業研究グループ連絡協議会の理事として、林業研究グループの活性化に尽力されています。

さらには、町内の林業関係者等で組織する鏡野町森林づくり協議会の会長として、毎年、鏡野町に提言し、鏡野町森林づくり条例の制定や森林づくりセンターの設置に繋げるなど、森林・林業施策の推進と地域林業の振興に大きく貢献されています。

《知事表彰〔団体指導者部門〕》

山下 豊（真庭市）

山下氏は、平成27年から（一社）岡山県木材組合連合会の理事に就任し、東京五輪大会



山下 豊氏

選手村ビレッジプラザの整備に県産製材品を提供するため、県と連携して県産材の調達、製材等に尽力するなど、林業・木材産業の発展と県産材の需要拡大に貢献されています。

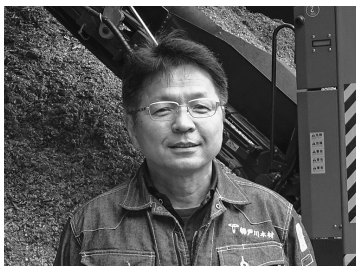
また、真庭木材事業協同組合の副理事長として、バイオマス集積

基地の整備に尽力し、木材をバイオマス発電やボイラーの燃料等として積極的な活用を促すなど、循環型社会の構築、地域の林業・木材産業の振興に貢献されたほか、山下木材（株）の代表として、卓越した製材・乾燥技術で地域の製材品ブランド「美作材」の強化に貢献したほか、自社独自でCO2認証を取得して地域の認証取得を先導するなど県内の森林認証材供給体制の構築と、認証製品の積極的な供給による森林認証材の普及に尽力されています。

《農林水産部長表彰〔林業部門〕》

戸川 睦徳（新見市）

戸川氏は、平成9年度に全国に先駆けてハーベスタを導入するなど高性能林業機械を駆使した作業システムを構築し、生産性向上と労働負荷軽減に努めるとともに、業績による決算賞与への反映や、安全手当の支給等の労務環境の改善を徹底し、高い定着率を維持するなど、



戸川 睦徳氏

県下の林業事業体の模範となっております。

また、木質バイオマス発電所への燃料チップ供給に取り組むとともに、令和4年3月には近畿中国森林管理局管内で初となる国有林の樹木採取権を取得し、木材安定供給の一翼を担うほか、市内の林業事業体や行政等で構成する新見市林業担い手対策協議会の会長として、林業就業ガイダンスへの参加など担い手の確保・育成にも尽力され、地域林業の振興に大きく貢献されています。

長畑 健三（奈義町）



長畑 健三氏

長畑氏は、平成18年から家業の山林種苗生産に従事し、若い後継者として大きな期待を

また、研究機関と連携して少花粉スギ・ヒノキ苗木生産技術の確立に尽力し、県下で最も早く少花粉スギ実生苗の出荷を行ったほか、省力低コスト再造林に必要なコンテナ苗の生産にも取り組み生産技術を確立するなど、少花粉苗木の安定供給体制の構築に大きく貢献されています。

《農林水産部長表彰

【団体指導者部門】

福田 勉 (奈義町)

福田氏は、平成19年に奈義町森林組合の理事に就任し、経営状況が悪化した組合の経営改善に着手され、平成22年からは代表理事組合長として、遊休資産の処分や事業管理費の削減などにより、組合運営の健全化に尽力されました。

また、森林所有者に働きかけて森林経営計画の策定に取り組みるとともに、路網整備を進め、搬出間伐を中心とした集約化施策、未整備森林の解消を積極的に実施するなど、林業の中核的な担い手として地域の信頼を得て、健全な森林づくりと

地域林業の振興に貢献されました。



福田 勉氏

丸田 一徳 (井原市)

丸田氏は、平成25年に井原市森林組合の理事に就任し、平成28年から代表理事組合長として、松くい虫被害により荒廃した森林の樹種転換をはじめ、除間伐等の森林整備や治山事業等による森林の保全再生

に取り組み、森林の公益的機能の回復・維持増進に努めておられます。



丸田 一徳氏

また、令和元年から岡山県森林組合連合会の理事として、連合会の運営にも積極的に関わり、森林組合系統を挙げて持続可能な林業経営を目指す「森林組合系統運動方針」の策定に尽力するなど、地域林業の振興に貢献されています。

受賞された皆様の、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(林政課 森林企画班)



一 はじめに

県では、環境保全意識の高揚や普及啓発を図るため、小・中学校等を対象に環境学習エコツアーを実施しています。

本ツアーでは複数のコースから希望するコースを選択することができ、令和元年度からは、おかもま森づくり県民税を活用した「森林環境学習コース」を追加し実施しています。

二 森林環境学習コースについて

このコースは、県内の林業関連施設をバスで巡りながら、森林・林業・木材についての体験学習を行う内容になっています。

Aコースは、森林の恵みや働きについて学ぶコースです。鏡野町にある県立森林公園のブナ林等をガイドとともに散策し、自然の豊かさのほか、私たちのくらしに欠かせない森林の働きを体感してもらいます。

Bコースは、苗木生産や林業の仕組みを学ぶコースです。県森林研究所で植栽や間伐などの林業技

術を体験するとともに、豊並樹苗生産組合でヒノキなどの苗木の生産現場を見学できます。

Cコースは、木材の利用方法や木材の魅力学ぶコースです。木材の産地である真庭地域を巡り、丸太が柱や板になるまでの流れや、家具や食器など暮らしに身近な木製品について実際に触れて学ぶほか、木材のバイオマス発電利用についても学ぶことができます。



エコツアーの様子

三 終わりに

気候変動対策・地球温暖化対策が喫緊の課題となる中、温暖化に歯止めをかける「緩和」策として、森林を守り育てることが大切です。森林や林業に触れて岡山県の森林環境に対する保全意識の醸成を図るため、今後もエコツアーを実施していくこととしています。

(環境文化部)

新エネルギー・温暖化対策室

県産材利用の 推進施策について



一 はじめに

県土面積の約7割を占める本県の森林は、9割以上が民有林であり、その約8割が木材として利用可能な40年生を超えています。

この豊富な森林資源の循環利用による林業の成長産業化の実現に向け、森林との関わりを深めながら、森林から多くの恵みを受容し、より良い姿で次世代に引き継ぐため、県産材を積極的に利用していく必要があります。

21おかやま森林・林業ビジョンでは県産材生産量58万立方メートル／年を目標に掲げ、適切かつ安定的な供給体制の整備を推進するとともに、県産材利用促進指針（令和4年変更）により、県産材の利用の促進に関する施策を総合的に推進しています。なお、令和3年では、木材価格の上昇もあり、県産材生産量は約65万立方メートルとなりました。

二 住宅分野への支援

県産材需要の大半を占める住宅建築において、木造化や品質・性能に優れた県産乾燥材の普及と森林認証材の利用を促進しています。

新築住宅等への助成のほか、県産材利用等の普及・啓発活動を行う県産材サポーターの育成（現在180名登録）や県産材が消費者に届くまでのサプライチェーンの構築を支援しています。県内の木造住宅の割合はここ20年間で20%近く増加し、県内の森林整備の一層の推進のために令和元年度からは森林認証材使用住宅への助成も行うっており、県南部での県産材利用の促進にもつながっています。

三 非住宅分野への支援

多数の集客が見込まれるなどPR効果の高い施設や中大規模建築物等において、木造化、木質化等への支援を行うことを通じ、広く県民に対して、木と触れあい木の良さを実感する機会を幅広く提供しています。特に、中大規模建築物等では、CLT等の普及も図りつつ、輸入材の割合が高い梁、桁等横架材への県産材利用を促進しています。

四 その他

県産材のPR活動の実施やPRに取り組む団体への支援等により、

県民への県産材利用促進の意義についての理解を深めるとともに、令和4年度には、東京五輪大会選手村整備に提供した県産製材品の県内公共施設等での後利用も進めています。

また、県内外の販路開拓や海外への輸出の一層の促進に向け、販路拡大のために関係団体と連携した取組を行っています。

民間建築物における県産材の利用促進においては、事業者等と締結する建築物木材利用促進協定の活用なども推進しています。



建築物木材利用促進協定の締結

五 おわりに

木材は、循環利用できる再生産可能な資源であり、カーボンニュ



おかやま木材フェスティバル2022の開催

ートラルの特性を持っています。環境への負荷が少ない循環型社会を創出するためには、木材を積極的に使用していくことが必要であり、県産材の利用を拡大し、森林の適正な整備を促進することが重要です。

これら県産材の利用促進のため実施する施策は、おかやま森づくり県民税を主な財源として推進しており、引き続き、関係団体等とも連携しながら、様々な機会を通じて県民に広く木材の優れた特性をPRするとともに、各種支援等を通じ、一層の県産材の利用を促進していくこととしています。

（林政課 林業木材班）

「ニューフェイスです！」

びほく森林組合

小林 建太さん (33歳)

今回紹介する方は、今年4月にびほく森林組合の技術員として採用され、日々、現場での修行に励む文字どおりピカピカのニューフェイス、小林建太さんです。



びほく森林組合 小林 建太さん

一 経歴

小林さんは大阪市の出身で、工学研究課程の大学院を卒業後、大手空調メーカーの開発エンジニアとして活躍されていました。

しかし、新型コロナの影響で忙しくなり、共働きでの子育てに限

界を感じ、生き方を変えたいと思うようになったそうです。

日々のストレスから解放されるために、アウトドアに興じていた小林さん。自然に囲まれた仕事や一次産業に憧れるようになり、森林ボランティアに参加しながら、林業が盛んな地域の情報を集めるうちに、「真庭なりわい塾」に参加。北房地域の方々と交流を持ち、北房地域で林業に携わるために「びほく森林組合」への就職を決意しました。

二 仕事の内容

小林さんが所属する作業班は保育作業を専門にしており、これまでに植栽や除伐、下刈りに従事してきました。



草刈機の操作にも慣れました

森林組合への就職前に林業就業支援講習を受け、基本操作は学んでいましたが、本格的にチェーンソーや草刈機を使い始めたのは就職してから。最初は戸惑う事もありましたが、先輩方からの指導と持ち前の器用さから、めきめきと腕を上げ、「安心して任せられる」と上司からお墨付きを得られるまでになりました。

三 仕事への情熱

「森林は日本が世界に誇る資源。それを育てる林業は誇れる仕事。もっと世間の評価が上がってもいいと思います。自分が楽しんで仕事をしている姿を見せることで、若い方や自分の子供たちが林業に関心をもってくれば嬉しいです。」と語ってくれた小林さん。その朗らかな笑顔の奥に、林業に対する熱く強い思いを感じます。

四 上司からの一言

小林さんが所属する班の班長である溝川さんは「熱意があり、器用な上に基本に忠実。前職での経験からリスク管理能力も高く、決して無理をしない性格。今後は高性能林業機械のオペレータなどの

経験も積んでもらうつもりです。きつと彼は、次代の組合を担う中心として育っていくことでしょう。」と大きな期待を寄せています。



仕事への思いを語る小林さん

五 終わりに

休日はお子さんと遊んだり、近所に借りた畑で家族と野菜を育てたりと、家庭サービスに勤しむ良きパパ。一方では憧れを憧れだけで終わらせない強い意志と実行力を持つ小林さん。

今後の更なるご活躍を期待するとともに、小林さんのような有望な若者がたくさん生まれるよう、当普及指導区としても支援して参りたいと考えています。

(高梁普及指導区 木村 昌生)

研究
だより

早生樹種の選抜・育成を目指して
— センダンの種子と採種について —

現在、本県の人工林資源は、本格的な利用期を迎えており、円滑な林業サイクルの循環が重要となっています。加えて、県内における木質バイオマス発電施設の本格的な稼働により、木質資源の安定供給の確保等も喫緊の課題であるといえます。こうした状況において、早生樹は、下刈り等の育林コストの削減や短伐期での収穫が見込まれることから、植栽樹種における選択肢の一つとして利用が期待できると考えられます。

当森林研究所では、令和3年度から、本県の造林に適する早生樹種等の選抜を目的とした試験研究に取り組んでいます。そこで今回、対象樹種の一つであるセンダンについて、調査結果をもとに、種子の形態的特徴や採種適期に関する検討を行ったので紹介します。

【樹種の概要】

センダンは、センダン科に属する落葉高木で、本州（伊豆半島以西）から沖縄まで広く分布しています。古くに日本に移入されたことから、在来種として位置づけられ

れます。成長が非常に早く、用材としても有用であるため、近年、早生樹として注目されています。その一方で、冬の凍害に弱いことから、導入する際には、植栽地における積雪の有無や標高などに注意が必要と考えられます。

【種子の特性】

果実は、複数の種子を内包した核を有しています（図1）。当研究所で、令和4年1月頃に採取した果実を対象に、核内の種子数を調べたところ、平均4粒程度でした。また、核の重量と内包種子数の間には、有意な正の相関がみられました（図2）。

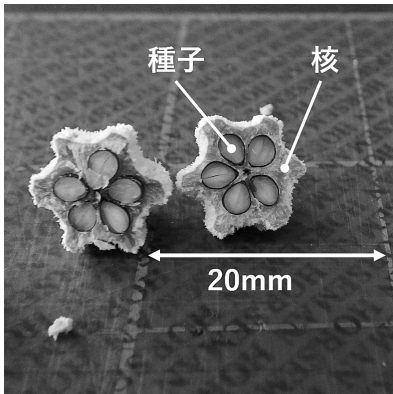


図1 核の断面

【採種の適期】

当研究所内にシードトラップを設置し、令和3年8月から令和4年3月まで、月毎に核（果実）の落下量を調査しました。この結果、12月から落下しはじめ、2月にピークを迎えた後、3月には収束するという、大まかな月変動の傾向がうかがえました（図3）。なお、ごく一部の核は9月頃から落下しますが、核の重量が小さく（100粒当たり約29g）、12月及び1月に落下した核の約8割程度でした。加えて、春にトレイへ直播した約100日後の核当たりの発芽率は、12月・1月に落下した核でそれぞれ46%・69%であったのに対して、9月に採取した核で0%でした。これらのことから、9月など比較的早い時期に落下し

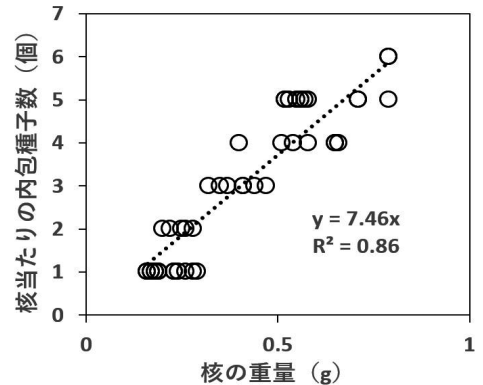


図2 核重量と内包種子数の関係

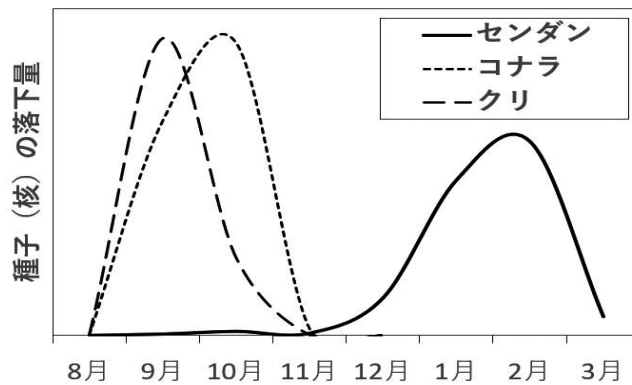


図3 種子(核)落下量における月変動の模式図

た核では、内部の種子が未発達であったと考えられます。一方で、数ヶ月間、樹上や地表で放置された果実（核）では乾燥が進み、発芽の遅れや発芽能力の低下が生じるという既報もあります。これらのことから、採種時期は、種子落下の最盛期である1〜2月頃が望ましいと考えられます。

今後も、センダンをはじめとする対象樹種について、育苗方法の検討や環境適応性の評価等を行い、本県の造林に適する樹種を検討したいと考えます。

（森林研究所林業研究室

技師 新原 一海）

技能講習会の開催（12月～2月）

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名 称	会場	日 程	申込・問合せ先
伐木（特別教育）	岡山	1月11～13日（受付終了） 2月14～16日（受付終了）	林業・木材製造業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL（0868）28-9518
	津山	12月21～23日（受付終了） 1月25～27日（受付終了）	
刈払（安全衛生教育）	津山	1月20日	
※15名以上の受講者がある場合は、「伐木等の業務に係る特別教育」又は「刈払機取扱業者に対する安全衛生教育」の特別開催（出張）を実施することができますのでご相談ください。			
小型移動式クレーン運転	岡山	1月26～27日	一般社団法人 岡山県労働基準協会 TEL（086）225-3571
玉掛け	岡山	12月1～2日 1月14～15、19～20日 2月2～3日	
	津山	2月27～28日	
フォークリフト運転	岡山	12月7、10日 1月6日 2月8、18日	

「もしも」に備えて・・・森林保険があります！

FOREST
INSURANCE



森林保険

加入できる森林は？ 人の手が加わった森林
加入期間は？ 1年単位で何年でも！
保険金がでるのは？

火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。

岡山県では過去5年間で約3千7百万円の保険金が支払われました。

ご契約のモデルケース（1haあたり）

樹 種…ヒノキ 契約時林齢…1年
保険期間…5年 保険金額…最大188万円
一括払いたと **27,444 円（5年間計）**

樹 種…ヒノキ 契約時林齢…26年
保険期間…5年 保険金額…最大299万円
一括払いたと **43,325 円（5年間計）**

1ヶ月あたり
約460円

わずかおむすび
4個分

1ヶ月あたり
約720円

わずかラーメン
1杯分

○保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。

○条件によって契約金額が変わってきます。

○お申し込み、お問い合わせはお近くの森林組合まで。

林 産 物 市 況



●木 材 (10月19日)

単位：千円/㎡

樹種	長さ	径 級	直材	小曲り	樹種	長さ	径 級	直材	小曲り
杉	3 m	1 4～1 6	13	—	檜	3 m	1 4～1 6	20	15
		1 8～2 0	13	—			1 8～2 0	17	15
		2 2～2 8	13	—			2 2上	15	13
	4 m	1 8～2 2	11	9.5		4 m	1 6～1 8	17	16
		2 4～2 8	12	10			2 0～2 2	15	13
	6 m	1 6～1 8	—	—			2 4～2 8	16	14
松	3 m	1 8～2 2	—	—	6 m	1 6	—	—	
	4 m	1 8～2 2	—	—		1 8～2 0	35	25	
・出荷材積			約3,400㎡						
(共販所より概況)									
杉概況 3m、4m並材・元木共に横這い相場にて推移しています。特に元木3m・22cm～34cm程度枝打ち良材については、品薄のため高値横這い推移しています。					桧概況 並材の一時的な値下がりから徐々に値上げ傾向が見られます。元木についても低調ながら横這いの傾向で推移しています。				
【3m】		【4m】			【3m】		【4m】		
柱材	横這い	中目材	横這い	元木	横這い	柱材	強含み	柱材	強含み
中目材	横這い	元木	横這い	中目材	強含み	中目材	強含み	中目材	強含み
				元木	横這い	元木	横這い	元木	横這い

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値

●製 材 (10月)

樹 種	寸 法	等級	区分	安 値 ～ 高 値 (円 / ㎡)	備 考
ス ギ	正角 3 m 10.5cm角	特等	K	～ 100,000	
	正角 3 m 12cm角	特等	K	～90,000	
ヒ ノ キ	正角 3 m 10.5cm角	特等	K	90,000 ～ 100,000	
	正角 3 m 12cm角	特等	K	～90,000	
	正角 4 m 10.5cm角	特等	K	90,000 ～ 100,000	
	正角 4 m 12cm角	特等	K	～90,000	
マ ッ	平角 4 m 10.5～12cm ×15～18cm	一 等	K	95,000 ～	
米 マ ッ	正角 3 m、4 m 10.5cm角	特等	G	82,000 ～	
	平角 3 m、4 m 10.5cm ×15～21cm	特等	K	～104,000	
北洋アカマツ	タルキ 4 m 3.8cm角	特等	K	～110,000	
ホワイトウッド	間柱 3 m 2.7cm×10.5cm	特等	K	～100,000	

注1：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。
 注2：区分のKとは人工乾燥材、Gとは未乾燥材のこと。



CT-500C ・GP-532
小型ハイパワープロセッサ
IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

shindaiwa

高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社
津山市一方 194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255
<http://www.mitsuyoshi.com/>

— 安全・人と自然・調和 —

美林を育てる

〔林地除草剤〕ザイトロンフレノック微粒剤・ザイトロン微粒剤・フレノック粒剤・ケイピンエース
造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕ランテクター水和剤・コニファー水和剤

〔幼齢樹保護カバー〕くわんたいⅡ 〔樹皮食い防止〕バークガード・美樹巻夫

〔樹幹注入剤〕マッケンジー・マツガード・他 〔野生草食獣侵入防止〕防獣ネット・他

お問い合わせ申込みは県森連・森林組合へ

販売：日植アグリ株式会社

販売元：大同商事(株)大阪営業所

TEL.086-292-5525

TEL.06-6384-1288



中古林業機械 売ります！買います！



HITACHI Logisnext
日立建設機械
油圧ショベル

STIHL
三菱ロジスネクスト
フォークリフト
チェーンソー

各種林業アタッチメント
KEEPA NANSEI
IWAFUJI MOROOKA

各種機械のレンタル・修理も承ります！

富士岡山運搬機株式会社



本社	岡山県津山市津山口111-1	TEL : 0868-24-3211
新見	岡山県新見市石蟹267-9	TEL : 0867-76-9077
岡山	岡山県岡山市中区江崎84-1	TEL : 086-277-5100
鳥取	鳥取県鳥取市南栄町33-15	TEL : 0857-50-1985

ほっけー木になる情報

Q. 岡山県内で、注意すべき毒きのこはありますか？

A. 岡山県では、数年に一度、毒きのこによる食中毒が発生しています。過去の分析では、秋に、まとまった降雨があると、多くのきのこが発生する傾向があることから、誤食による食中毒が発生しやすくなります。多くの場合、マツタケ狩りや、秋の行楽に出かけた際に、道端や倒木に生えたきのこを、食用のきのこ間違えてしまうことが原因です。

これらの毒きのこの代表例としては、シイタケによく似たツキヨタケ（図1）があります。このきのこは、県北部の県境地域のほか、ブナの倒木等に連なって発生し、県内だけでなく、全国でも繰り返し、食中毒が発生しています。また、手入れ不足のマツタケ山では、食用のウラベニホテイシメジのほかに、嘔吐や下痢を引き起こすクサウラベニタケが発生します。いずれも外見が良く似ており、発生場所も重なり合っているため、非常に紛らわしいきのこです。また、当所によく持ち込まれる毒きのことして、カキシメジがあります。このきのこは、林道脇の地面などに、大量に発生し、非常に目立ちます。また茶褐色で、外観に毒々しさが無いため、人の警戒心が薄れるようです。その他、テングタケ（毒）の仲間なども食中毒を引き起こしています。



図1 ツキヨタケ

今後の懸念材料として、カエントケ（図2）の発生が予想されます。このきのこは、カキノナガキクイムシ被害地の倒木や根株に発生する猛毒のきのことして知られています。外観の毒々しい赤色が特徴ですが、触ったり、食べたりすると、様々なつらい症状を引き起こして死に至る恐れしい毒きのこです。



図2 カエントケ

（森林研究所 林業研究室）



「緑の募金」 ご協力をお願いします

緑の募金で進めようSDGs（持続可能な開発目標）

募金期間

春のみどりの月間
4月1日～5月31日

秋のみどりの月間
10月1日～10月31日

口座振込は
こちらへ

ゆうちょ銀行	01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店	普通1852041
トマト銀行岡山駅前支店	普通1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会
岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086) 221-9511

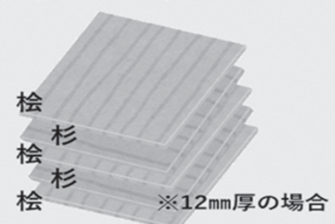


ヒノキのくに岡山から、100% 岡山県産材の合板が誕生。

OKAYAMA
岡山県産材合板

県産森林認証材 JAS桧構造用合板

◇ 12mm厚	910mm × 1820mm
◇ 24mm厚	910mm × 1820mm



※県産森林認証合板を床・壁に一定量以上使用すると、令和4年度おかやまの木で家づくり支援事業の助成を受けることができます。



お問い合わせ 〒701-1202 岡山市北区檜津485
岡山県森林組合連合会 木材センター TEL 086-284-0299

林声

森林・林業施設の紹介

「津山市沼自動車学校宿泊棟」

学校法人津山基督教学園 沼自動車学校（津山市沼）では、県産材利用促進対策事業を利用して、合宿による自動車免許取得のための宿泊棟を敷地内に整備しました。個室8部屋を有する延べ床面積約217平方メートルの木造2階建てで、県産認証材を約27立方メートル使用しています。完成は令和4年11月末の予定です。



建築中の沼自動車学校木造宿泊棟

専務理事の井澤貴生氏にお話を伺いました。

「近年では少子化や若者の車離

令和四年十一月一日（第四八六号）
（隔月一日発行）

れ等により、主たる教習生であった18歳の生徒が激減しており、就職が決まった大学生の教習生が増えている。卒業までの短期間に免許が取得できる合宿コースに人気が出てきており、今後、全国からの入所の増加も見据えて宿泊棟の新築を行った。」とのことでした。



井澤専務理事

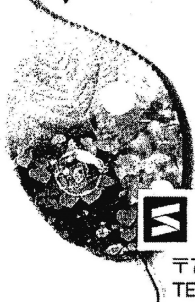
宿泊棟の建築にあたり、付き合っている設備関係業者から紹介された（株）鏡水（鏡野町）に相談したところ、県産材利用促進対策事業を活用して、木造建築とする提案がなされたそうです。

（株）鏡水は自社管理の森林から伐採した原木を用い、製材から建築まで一貫して手がけていることで、地域材（認証材）を活用することによる環境貢献や輸送コストの低減、一貫工程による品質の高さなどを考慮して発注しました。約2週間宿泊する利用者に県産材を利用した施設の快適性を実感して頂きたい。」とのことでした。

（津山普及指導区 長畑 弘道）

編集 岡山県森林組合連合会内 岡山県林業改良普及協会
発行 〒701-1202 岡山市北区檜津四九一―一

木を通して環境保全に貢献しています



公園修景施設・土木用資材
防腐処理・ログハウス・デッキ

さんもく工業株式会社

〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号
TEL 086-262-0137(代) FAX 086-262-0130

おかやまの木で家づくり支援事業

- ✓助成金額：最大24万円/戸
- ✓助成対象者：県内において住宅を新築または改修される施工業者（大工、工務店等）



詳細は
コチラ

<http://www.kaiteki-kinoie.or.jp/subsidy.html>

一般社団法人岡山県木材組合連合会

〒700-0902 岡山市北区錦町1-8(岡山県木材会館内)
TEL(086)231-6677 FAX(086)232-7549

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 森産業株式会社
総発売所

岡山営業所 岡山市北区辰巳46-104
TEL 岡山(086)805-7033(代)



緑あふれる環境づくり

株式会社 山都屋

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号
TEL(086)272-2161 FAX(086)272-2142
<http://www.yamatoya-net.com>
大阪営業所 津山営業所 水島営業所



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。